

児	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		・パーティションで空間を仕切っている ・空間の使い方だけでなく、お子さんの特性に合わせて場所や向き・道具選定を工夫している
②	職員の配置数は適切である	83.3%	16.7%	・スタッフ数が急遽少なくなることもあり、当日の人員確保が難しいことがある 【工夫】 予定外のスタッフ減がある場合もお子さんの安全第一に他部門のスタッフに手伝いを依頼している
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	100%		
④	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%		・感染予防を含めた毎日の掃除を行っている
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		・月間計画の作成をしている
⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	100%		
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	58%	42%	・今後検討していきたい
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		・社内で定められた必須研修や独自のケース検討会の実施
⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		・保護者との面談と利用時のお子さんの観察を評価の基本とし、必要に応じて標準化された評価を使用している
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールをしようしている	100%		・KIDSを使用している

児	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%		
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	83.3%	16.7%	・個別対応の場合は担当者が作成した後に児童発達支援管理責任者によって内容を精査している
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		・ルーティンワークの中に季節や年齢に合わせたテーマを入れている
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%		
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		・月間予定の作成によって見通しを立てている
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等共有している	100%		
⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		・保護者に分かりやすい言葉で書くことを心掛けている
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83.3%	16.7%	・保護者との面談の一部は年間計画としている
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%		・市内の事業所連絡会に参加している
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保険、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			

児	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100 %		・保護者の希望に合わせて相互の見学や検討会を行なっている
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83.3 %	16.7 %	
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受け居ている	83.3 %	16.7 %	
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50 %	50 %	
②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33.3 %	66.7 %	
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達や状況や課題について共通理解を持っている	100 %		・毎回記録と口頭でのフィードバックを行なっている
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	74.7 %	25.3 %	
③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100 %		
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100 %		・主訴に合わせた計画を心がけている
③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100 %		

児	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33.3 %	16.7 %	
36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100 %		・必要なら資料を作り説明している
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50 %	16.7 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログやLINEを活用している</li> <li>・言葉だけでなく資料も用意する</li> <li>・個人情報の漏洩が無いように気をつけている。わかりやすく伝わるように具体的に伝えられるように努めている。</li> <li>・情報を提供する際に曖昧な情報を提供しないようにしている。しっかりと調べたり理解した上で後日提供を行うなど正しい情報の提供を行うようにする。</li> <li>・専門用語や難しい用語を使用しないようにしている</li> <li>・連絡帳への記録や口頭での報告、ブログなど</li> </ul>
38	個人情報の取り扱いに十分注意している	100 %		
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100 %		
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50 %	16.7 %	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83.7 %		
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66.7 %		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100 %		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100 %		

子ども発達支援ルームおれんじ学園nico  
令和 4年度 事業所向け 児童発達支援自己評価集計結果

児	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	66.7%		